



「花子とアン」の時代と現代と・・・女性と社会について考える

校長 吉田 亘

今年度上半期のNHK朝の連続テレビドラマの「花子とアン」。主人公の「村岡花子」は「赤毛のアン」の訳者であり、地元大田区の大森に住んでいたことはご存じだろうと思う。もしまだ知らなければ、本校図書館にいくつかの関連図書が展示してあるので、読んでみるとよい。

村岡花子は、明治36年（1903）山梨の農家から、10歳で東洋英和女学院に給費生として編入した。そこで、文学と英語に強く惹かれ、卒業後も翻訳の勉強を続けた。後に児童文学者、翻訳家として活躍する。また、彼女は、大正・昭和の女性運動家という一面もある。村岡花子は、他の女流文学者や活動家とともに戦前の女性参政権運動に協力したことが、朝ドラの原作「アンのゆりかご」の中に記述されている。戦前・戦中の日本では、戸主を中心とした「家」の存在が重視され、女性に求められたのは「良妻賢母」としての生き方であった。こうした家制度によって、女性の社会的な地位が低く抑えられていた中で、女性として自分の仕事を持ちながら、積極的に社会運動に参加するエネルギーには感嘆する。戦後、女性の参政権が認められ、女性が社会進出できるようになるまでには、こうした多くの女性の地道な活動があったのである。

ところで、現在の社会はどうであろうか。政府は、少子高齢化社会を迎えるにあたり、今後は女性の労働力をより積極的に活用して

いくことを掲げている。しかし、現状は、平成24年度厚生労働白書によると、女性就業率と男性就業率の比率の差が22%あり、先進国（OECD）の中で一番大きい。また、女性の労働力率が、出産・育児期と思われる30代に他の年齢よりも下がるのは、先進国では日本と韓国だけである（図参照）。さらに、女性管理職の比率も11%と韓国の次に低い。このように統計から見ると、先進国の中では、日本が女性にとって働きやすい社会であるとは言えないことが分かる。そのため、子育て環境の充実や教育支援の制度の充実など様々な制度改革が今求められている。

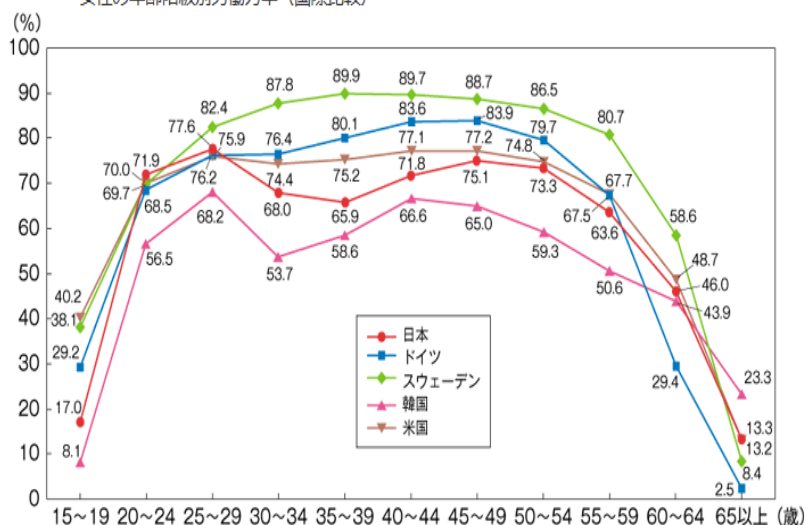
しかし、制度改革とともにやらなければならないことがある。それは、意識改革である。

先日、都議会において、子育て支援について質問した女性議員に対し、卑劣なヤジが寄せられたという記事が大きく報じられた。このヤジは、標準家庭「働く夫と専業主婦に子ども一人」という政府の統計基準があるように、「女性は結婚して子どもを生み、働かずに家事や子育てに専念するのが理想である」という意識から出たものではないかと思っている。

かつての家制度からの意識はまだ強く残っている。「家事・育児は女性が中心」という考え方を変えないと、これからの人口減少社会への対応は難しいと思う。頭では、「男性も女性もお互いが家事、育児を共有することが当たり前だ」という考えが必要であるということは、理解しているが、世代ごとに定着した意識を新たにすることは容易ではない。

まさに、皆さんの世代が、新しい考え方や働き方、生き方をつくっていくものと大変期待している。

女性の年齢階級別労働力率（国際比較）



(備考) 1. 「労働力率」・・・15歳以上人口に占める労働人口（就業者+完全失業者）の割合。
 2. 米国の「15～19歳」は、16～19歳。
 3. 日本は総務省「労働力調査（詳細集計）」（平成22年）、その他の国はILO「LABORSTA」より作成。
 4. 日本は平成22年（2010年）、韓国は平成19年（2007年）、その他の国は平成20年（2008年）時点の数値。

人権に対する感覚

副校長 野村 悟

人権教育は、一人ひとりの生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすることが目標といえます。

学校では、様々な課題や問題を抱えている生徒が在籍しており、生徒の日常的な様子について、注意を払い、担任や学年のみならず教科担当や部活動顧問を含めた複数の視点で見守る必要もあります。

だいぶ以前のことで、私の学年の生徒（当時学年主任を担当）から、相談を受けたケースがありました。問題の根は深く複雑で、担任をはじめとして学年団や当時の管理職、教育相談委員会や生活指導部や養護教諭といった学校組織全体で体制を構築しました。組織でこの問題を共有する中で、問題解決に取り組むということが必要だったからです。会議の中で、学校内だけではなく児童相談所や生徒の居住地域の民生委員といった外部機関とも連携していく必要があるということになり、1年という長い時間をかけて問題解決へ導いた事例を扱ったことがあります。

上記の例は一例であり、冒頭に述べた人権教育は虐待問題だけではありません。

学校において人権教育を推進するためには、まず教職員が人権尊重の理念を十分に理解することが不可欠です。その上で、生徒自身が人権に関する理解を深め、人権感覚を身につけることができるように組織的、計画的に指導を進めていくことが必要だといえます。その人権感覚とは、日常生活の中で問題あるような出来事に接した際に、直感的にその出来事はおかしいと思う感性や日常生活において人権への配慮が態度や行動に現れるような感覚だといえます。上記の事例でいうならば、「これは普通ではない。どこかおかしい」と感じる生徒やその友人生徒の感性がそれに相当するといえます。

学校の中で人権教育を効果的に展開するためには、教職員と生徒一人ひとりが人権尊重の理念を十分に理解し、人権感覚を磨かねばなりません。そのためには、学校が人権教育の目標を明確にして、研修などを中心に、学校全体として組織的・計画的に進めることが重要です。その中で、学校と保護者、そして近隣の地域社会や外部の関係諸機関と連携を図っていく必要があります。

つまり、生徒の実態や発達段階に応じて、教育活動全般を通じて計画的、系統的な指導を展開していく中で、一人ひとりの生徒が情操を豊かにし、健康で安全な学校生活を送ることができるように、教育環境の整備に努めなければならないといえます。

個々人の人権の感覚を磨くこと、ひいてはそれが健全な社会を作ることにつながっていくのだと信じます。

体育祭無事閉幕

生活指導部 体育祭担当教諭 玉田将太

今年の体育祭は準備段階から天候に悩まされるものとなりました。雨の日続きで、当初予定していた6月6日（金）の予行も7日（土）の本番も延期となり、予行なしで不安を抱きながら

10日（火）を迎えました。当日は生徒の思いも届き、朝には雨も止んで、ぬかるんだグラウンドの整備に生徒・教員が一丸となって取り組みました。本番では、生徒1人1人が練習の成果を出そうと一生懸命競技に取り組む姿に心を打たれました。

体育祭という大きな行事を乗り越え、クラスの団結力が高まるとともに今後の学校生活に何か活きるものがあれば幸いです。

最後になりますが、今年の体育祭も生徒、教員、PTAの方々のご協力により、無事終えることができました。心より感謝申し上げます。



田高進路プロジェクト

進路指導部 相原 弘明

『田高進路プロジェクト』による進路行事が以下のように行われました。

1. テーマ別キャリアガイダンス NO1.「保育のしごと」1～3学年希望者対象

日 時 5月12日(月) 2時30分～4時30分

講 師 田園調布ナーサリー 岩田 篤典 先生、中島 静香 先生

少子化問題が叫ばれるなか、幼児教育について、そして保育士の実際のしごとや、保育士になるためのアプローチなどについて、先生からお話を伺いました。田園調布ナーサリーは沼部駅前の保育所です。映像を交えた分かり易いお話で、ちょっとしたワークショップも実施して頂きました。

2. テーマ別キャリアガイダンス NO2.「看護師のしごと」1～3学年希望者対象

日 時 6月16日(月) 3時30分～5時30分

講 師 東京都立荏原看護学校 水澤 晴代 先生

看護のお仕事の内容を詳しくお話いただきました。なぜこの仕事を目指したのか、実際の仕事の様子、仕事への思い、仕事のやりがい、必要な素質などをおききました。生徒も熱心に質問をし、看護の仕事に対する理解を深めることができ、将来の職業を考えるきっかけとなったと思います。

3. プレカレッジプログラム「大学出張講義」2学年全員対象

日 時 6月19日(木) 2時30分～4時30分

講師の先生方と講義内容は下の表のとおりです。実際に大学ではどのような講義が行われているのか。また、本格的な学問とはどのようなものなのか、その一部を垣間見ることができたと思います。

講座番号	大学名	所属(専門分野)	名前	講義タイトル	受講人数
11	東京大学大学院	比較文学比較文化研究室	佐藤 温 先生	研究者を目指しながら考えていること	15
12	東京外国語大学	言語学社会教育センター	田中 孝史 先生	「危機言語ってなに? -日本とロシアの言語について知ろう-	37
13	慶應義塾大学大学院	システムデザイン・マネジメント研究科	富田 欣和 先生	『「学際」のすゝめ』 ～知を深め、知を拡げ、知を結ぶ システムデザインの世界～	17
14	明治大学	経営学部(専門:財務会計)	石津 寿恵 先生	知ってお得な会計の話	37
15	法政大学大学院	法政大学大学院 坂本研究室	染川 憲一 先生	企業のありかたと障害者雇用について	14
17	東京大学	先端科学技術研究センター 森川研究室	田代 諭弘 先生 安田 晃久 先生	なぜ工学を研究するのか～工学の意義と楽しさ～ 実生活で役に立つ、学校では教えてくれないこと	18
18	東京大学大学院	工学系研究科総合研究機構 杉山研究室	杉山 正和 先生	太陽電池の原理と将来展望:人類が必要なエネルギーをすべて太陽光発電で得ることは可能か?	13
19	電気通信大学	知能機械工学専攻	長井 隆行 先生	人間のような知性をもったロボットは作れるか	32
20	東京学芸大学	基礎自然科学	犀川 政稔 先生	ハウセンカの維管束	48



1 学年より

1 学年 荻原 秀明

入学して、3ヶ月立ちました。今、期末考査が終わり結果が手元に届いている頃です。4月当初の決意を貫徹できた生徒も多くいる中、すでにその気持ちは「どこ吹く風」言う生徒もちらほらと見受けられます。勉強は、計画と実践、そして振り返りが基本です。1年生の頃から、自学自習と家庭学習を身につけ事は、3年生で受験に耐えうる習慣作りと考えています。計画を立てる手立てとして「スコラ手帳」の活用を学年の取り組みとしています。また、昨今、スマートホンなどで写真として記録する生徒が多くいます。しかしスマートホンが記録したものは、頭に入りません。書くことの大切さは、多くの情報を取捨選択し、頭を整理する方法だと考えています。成績上位者の多くの生徒が、「スコラ手帳」を有効に活用している報告を受けています。2学期は、活用の定着を目指しています。ご家庭でも活用できるようご協力お願いいたします。夏休みに向けて、「時間の有効活用」を目指し計画的に生活を送ってほしいと思っています。

体育祭、その他

2学年 有馬 聡

もはや旧聞に属する話かもしれませんが、6月10日(火)に体育祭が実施されました。雨天のため平日の開催でしたが、2学年も多くの保護者の皆様にお越しいただきました。また多くのPTAの方々に手伝いをいただき、開催そのものが危ぶまれた中、充実した体育祭とすることができました。

この日のために、体育祭実行委員をはじめとして多くの2年生がそれぞれの役割を立派に果たしました。また昼休みや放課後の自主練習に多くの生徒が参加しました。中には毎日熱心に朝練に取り組んだクラスもありました。また各クラスごとにそれぞれ意匠を凝らしたクラスTシャツを作り、当日は「勝ちたい」という思いを前面に出して競い合っていました。またエキシビションに参加した生徒諸君の楽しそうに踊っている姿も印象的でした。もちろん練習や準備段階では様々なことがあったのではないかと思います。しかしそのような何か(例えば体育祭という行事)に向けての様々な過程そのものが生徒諸君を少しずつ成長させます。人は何かにぶつかり、そしてそれを乗り越えるときに何物かを得ることができるのではないのでしょうか。

来年は3年生として体育祭やぼろにあ祭など多くの行事で全体を仕切ることとなります。如何にして全校生徒を動かすか。田園調布高校のそれぞれのポジションで、次は自分たちがリーダーシップを発揮するのだという自覚をもって今後の行事に取り組んでほしいと思っています。

さて、7月4日(金)に期末考査が終わり、生徒諸君は夏休みを目の前に期待に胸を膨らませているようです。この数日の内に答案が返却されることと思いますが、思うような結果が得られなかった人には、少しでも成績を上げるように、夏休み中の学習に取り組んでほしいと思います。

生徒諸君の様子をみると、自宅での学習時間が十分に確保されていない者が少なからずいるようです。まだ受験には間があると考えている人も多いようですが、今のうちに家庭での学習習慣を身に付けておかないと、いざ3年生になったときに急に生活のリズムを変えることは至難の業です。受験業界では「高2の夏休みが重要だ」ということがよく言われます。ご家庭におかれましても、ぜひ「自宅での学習習慣」の確立にご協力を賜りたく存じます。

一学期を振り返って～体育祭を中心に～

永倉美枝子

もう終業式か、そんな感想を持つ生徒も多いかもしれません。新クラスで迎えた最終学年、4月の模擬試験に始まり5月の遠足、中間考査、そしてあっという間に体育祭となりました。

今年の体育祭は、大雨のため6月10日に延期されて行われました。延期されてもなお梅雨時で天候が心配でしたが、幸いにも体育祭当日だけ梅雨の中休みとなり、無事終えることができました。3年生にとっては、最後の体育祭になりましたが、体育祭実行委員会をはじめとする各種委員会、クラス、クラブ、エキシビション等々、色々な面から体育祭という行事に最上級生として関わることで、1、2年生の時とは違う困難に直面し苦労しつつも、今までとは違った充実感、達成感を味わった生徒が多かったのではないかと思います。行事を経験するたびに、今まで接することのなかった人たち、経験したことのなかった事柄との新たな出会いがあります。全力で取り組んだ生徒にとってはこうした高校時代の経験が生涯を支えてくれる大切な財産となることと思います。2学期早々、最後の大きな行事、ぼろにあ祭がひかえています。今まで培ったきた田校生としての総合力を結集し、63期生の底力を見せてくれることを期待しています。

もう、卒業か、卒業式を迎えた自分がどうあって欲しいのか、“理想の自分”を作るのは自分自身です。1日1日がかけがえのない日である、日々是好日という気持ちで勉強、行事、学校生活全般に全力で取り組んでください。頑張る人をいつも応援しています。

図書委員会より古本募集のお願い

ぼろにあ祭で行う「古本市」のための本を募集しています。ご不要の本・マンガ・絵本・雑誌などがありましたらぜひご寄付ください。(状態があまりに悪いものはお受けいたしかねます)。

9月9日までに、本校図書館へお持ちください。ご寄付いただいた方には、冊数相当の無料券を差し上げます。

